

## ■ 本文

和泉式部といふ人こそ、おもしろう書きかはしける。されど、和泉はけしからぬ〔①〕かたこそあれ。うちとけて文はしり書きたるに、そのかたの才ある人、はかなき言葉の、にほひも見え〔②〕侍るめり。歌はいとをかしきこと。ものおぼえ、歌のことわり、まことの歌よみざまにこそ侍らざ〔③〕めれ、口にいと歌の詠まるるなめりとぞ、見えたるすぢに侍るかし。恥づかしげの歌よみやとはおぼえ侍らず。

丹波守の北の方をば、宮、殿などのわたりには、匡衡衛門〔④〕とぞ言ひ侍る。ことにやむごとなき〔⑤〕ほどならねど、まことにゆゑゆゑしく、歌詠みとて、よろづのことにつけて詠み散らさねど、聞こえたるかぎりは、はかなき折節のことも、それこそ恥づかしき口つきに侍れ。

清少納言こそ、したり顔〔⑥〕にいみじう侍りける人。さ〔⑦〕ばかりさかしだち、真名書き散らして侍るほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり。かく、人に異ならむ〔⑧〕と思ひ好める人は、かならず見劣りし、行く末うたて〔⑨〕のみ侍れば、艶になりぬる人は、いとすごうすずろなる折も、もののあはれにすすみ、をかしきことも見すぐさぬほどに、おのづからさるまじくあだなる〔⑩〕さまにもなるに侍るべし。そのあだになりぬる人の果て、いかでかは〔⑪〕よく侍らむ。

(注) けしからぬ=感心しない。にほひ=風情・美しさ。匡衡衛門=赤染衛門のこと。夫の大江匡衡にちなむあだ名。やむごとなき=高貴である。真名=漢字。すずろなる=なんということもない・とりとめない。あだなる=浮ついている。

## ■ 設問 (全21問)

- 冒頭の「和泉式部といふ人こそ」の「こそ」と同じ働きをするものを、本文中の傍線部以外から一つ抜き出せ。
- 傍線部〔①〕「けしからぬ」を、ここでの意味に即して現代語訳せよ。
- 傍線部〔②〕「見え」の活用の種類と活用形を答えよ。
- 本文に登場する清少納言が著したとされる、宮廷生活を「をかし」の美意識でえがいた随筆の名を答えよ。
- 本文中で、紫式部が和泉式部の歌を評して用いた「恥づかしげの歌よみやとはおぼえ侍らず」とは、和泉式部をどのような歌人と見ているということか。簡潔に説明せよ。
- 傍線部〔④〕「匡衡衛門」とは、ここでは誰を指すか。本文の語を用いて答えよ。
- 傍線部〔⑤〕「やむごとなき」の本文中での意味を答えよ。
- 傍線部〔⑥〕「したり顔」とはどのような顔つきか。現代語で説明せよ。
- 清少納言について、紫式部は「真名書き散らして侍るほども、よく見れば、まだいと足らぬこと多かり」と述べている。これはどういう批判か、説明せよ。
- 傍線部〔⑧〕「人に異ならむ」を現代語訳せよ。あわせて「む」の文法的意味を答えよ。

11. 傍線部〔⑨〕「うたて」の意味として最も適切なものを次から選べ。
- ア つらく悲しく イ いやで情けなく ウ めずらしく エ おそろしく
12. 傍線部〔⑩〕「さるまじくあだなる」とは、どういう状態か。「さるまじく」の内容を補って現代語で説明せよ。
13. 傍線部〔③〕「侍らざめれ」について、次の小問に答えよ。
- (1) 「ざ」は何という助動詞の何形か。
- (2) 文末が「めれ」と已然形になっているのは、何の働きによるものか。文中の語を挙げて説明せよ。
14. 傍線部〔⑦〕「さばかり」の「さ」は何を指すか。指示内容を明らかにして現代語訳せよ。
15. 傍線部〔⑪〕「いかでかはよく侍らむ」について、次の小問に答えよ。
- (1) この「かは」は係助詞である。結びの語を抜き出せ。
- (2) ここでの「いかでかは」は反語表現である。全体を現代語訳せよ。
16. 赤染衛門（匡衡衛門）について、紫式部はどのような点を評価しているか。本文に即して説明せよ。
17. 本文後半で紫式部は、清少納言のように「人と違っていよう」とする人の行く末について、どのような考えを述べているか。要旨をまとめよ。
18. この三人の女房評から読み取れる、紫式部の批評の姿勢の特徴を一つ挙げて説明せよ。
19. 『紫式部日記』の作者紫式部が仕えた中宮（一条天皇の后）の名を漢字で答えよ。
20. 『紫式部日記』のように、平安時代に宮廷に仕えた女性たちによって仮名で書かれた文学を総称して何というか。漢字四字を含む語で答えよ。
21. 次のうち、紫式部の作とされる作品をすべて選べ。
- ア 源氏物語 イ 枕草子 ウ 和泉式部日記 エ 紫式部集 オ 更級日記